
limit.

哀しき吸血鬼

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

limit.

【Nコード】

N4016Z

【作者名】

哀しき吸血鬼

【あらすじ】

彼らが閉じ込められた場所では、次々と非現実的な事が起こる。彼等は生き残る為に手段を選んでる時間は無い、早くこの場から逃げ出さなければ……待っているのは死のみの過酷なゲームが幕をあげる。

朝（前書き）

前回の

消えてしまったので

再投稿の様な感じです。

すみません > m (— (m <

朝

何ら変わりのない、朝が今日も来た。

7:00

もう…こんな時間が、そろそろ飯の出来る時間だ。

そんな事を考えていた矢先に母の声が聞こえた。

「ご飯の準備出来たよ」

「ああ、わかった今行くよ」

今日は、学校がある。

少し落ち込むが、明日からは念願の夏休みだ。

1学期最後の登校だ、遅刻はしたくない。

そんな事を考えながら、支度を済ませ一階に降りた。

階段を降りたすぐ近くの扉がリビングになっており、そこで朝食を取っている。

ガチャ

「遅いよ！今日は1学期最後の登校何だから早く行かないと」

「わかってるって」

朝から、母に怒られるのはもう何度目になるだろうか。

母の機嫌が悪くなる前に、早く飯を食って登校する事にした。

「行つてきまーす」

返事が無い、きっと洗い物でもしているのだろっ、いつもの事だ。

朝（後書き）

誤字や

わかりずらい場所が

有りましたら教えて下さい。

感想なども

お願いします。

最後の登校（前書き）

少し内容が

変わりました（x|x;x）

最後の登校

7：58

「ふうー、ギリギリ間に合ったあーって急いで教室に行かなければ
…やべえ」

校門に二分前に着いただけで遅刻は免れたと思った僕が、そこには
いた。

8：01

「先生、遅れました！すみません」

教室の隅の方から

聞き慣れた声がした。

「また、遅刻かい？君は懲りないよな」

僕は顔を見なくてもわかった、僕に嫌みを言った奴は教室の隅で良
く本を読んでいる、雨音「アマネ」修「シュウ」に違いない。

何故なら、上から目線で物事を言って来る奴は限られるからだ、そ
れもこのクラスの隅となると一人しかいない。

正直、僕には苦手なタイプだ。

最後の登校（後書き）

誤字、感想等が
有りましたら。

現れた、部長（前書き）

此処からは

投稿初になります。

どうか

暖かい目で

見て欲しいです。

現れた、部長

11:50

「やっと終わったー」

校長の長かった話も終わり、後は教室に戻り挨拶をすれば帰れる。

12:00

やっと帰れると思ったやさきに

俺の所属している部活の部長がわざわざ俺を迎えにやって来た。

「笹原くん、いますかぁー」

俺はその問いに対して返事をしなくなかった。

何故ならば

俺の所属している（オカルト研究会）は高校の休みの日には殆ど廃墟に行ったりしているからだ。

もし見つかりでもしたら、俺も無理矢理連れていかれるだろう。

そんな時…

現れた、部長（後書き）

観覧

ありがとうございます。

今回の、誤字や感想等
有りましたら教えて下さい。

出来れば

次回も観覧お願いします。

部室への扉（前書き）

今回も

まだ学園内の話です。

良ければ

読んで貰えると

嬉しいです。

部室への扉

「笹原なら向こうの角にいるよ」

「……」

まさかクラスの女子にバラされるとは。

僕は逃げる場も無く、部長に捕まった。

「笹原くん、今日は部活に来るよね？」

出来れば行きたくない、だが部長の気迫が凄い。

僕には選択肢が無い様に感じたので、覚悟を決める事にした。

「今日は、行こうと思ってましたよ!!」

「じゃあ、夜21:00時に第三研究所に行くから来てね」

確か、こちら辺では第2研究所までのはずだが……

「えっ……？第三研究所ってどこら辺？」

「笹原くん、知らないんだっけ、まあいいや詳しい事は部室で話すよ」

僕らは部室に行く事になった。

部室は旧校舎にあり、行くには少し時間がかかった。

12:30

「部屋つて此処？」

僕が居たときとは、違い凄く扉がボロくなっていた。

「そうだよ!!」

僕は、少し蜘蛛の巣が着いている、薄汚れた木製の扉に手を掛けた。

部室への扉（後書き）

次回は

部室に入り

幼なじみと会うなど

キャラを増やして行きたいと思っています。

感想や誤字等

ありましたら教えて下さい。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4016z/>

limit.

2011年12月16日07時52分発行